

最近読んだ本のこと

平成マシンガンズ（著：三並夏） バスジャック（著：三崎亜記） マオ（著：ユン・チアン）
私はこうして発想する（著：大前研一） まんげつの夜に（作：木村裕一／絵：あべ弘士）

「平成マシンガンズ」は、文藝賞を最年少記録の15歳で授賞した作品。中学生が書いた小説である。イジメや家庭崩壊の話。文章表現は、子どもの精一杯さと自由奔放さがあり、新鮮である。内容はリアルで、子どもはこんな状況下にあるのかと思うと、救いようのない気分。

未成年がとった文藝賞作品は、必ず読むことにしている。それは、その若い感性で、錆びつきそうな私の脳を刺激してもらうためである。ある作家は、「この人は、意外に大物かもしれない」と著者を評し、別の作家は、「ことばを通して社会と向き合う凜としたところがある」と評した。この小説の最後の数行は、凜としたところを凝縮した部分と言えそうだ。ここが救い。

「バスジャック」は、「となりまち戦争」で衝撃的に登場した三崎亜記の短編集。この人は、やはり、ただものではなかった。どの作品にも、「朝、服を着替える時、パンツを裏表にはいてしまい、しかも、シャツのボタンが一段ずれてしまったけど、そのままネクタイをして、さらに黙って炊飯器を下げて出勤し、それでもちゃんと帰宅して一日が終わる」というような、なんとも不思議な世界がある。この不思議な世界をどのように受け止めればよいのか。・・・この人には、笑いのセンスがある。きっと、ただただ読者を笑かそうとしているのだろう。

「マオ」は、中国共産党の故・毛沢東の知られざる真実をまとめた、すごい本。著者は「ワイルド・スワン」の作者の中国人女性。訳も上手いのだろうが、漢文調(?)の簡潔な文章がよい。100年前の中国では、地方にいけば、山賊がいて周辺の村から食べ物を略奪するようなことが、まだ行なわれていたらしい。女は、てん足にされ、名前もまともに付けてもらえなかった。ごく最近まで、たくさんの人が殺された。血を流すことを厭うものは、血を流すことを厭わないものには勝てない・・・は、ナポレオンだったかな? それを思った。

「まんげつの夜に」は、オオカミの「ガブ」とヤギの「メイ」の恋愛小説(本当は、子どもの本)。シリーズ第6作目で話は完結したと思ったけれど、読者からの「オオカミのガブは、雪崩の中でどうなったのか。あんな終わり方じゃ、いやだ。」の声を受けて世に出た、待望のシリーズ第7作目。弊社の私設図書館「時図文庫」には、7作全部揃っている。この物語に涙しない人とは、お付き合いしないことにしている。それにしても映画のメイは、ちょっと違う。

「私はこうして発想する」は、話し言葉で書かれていて読みやすい。発想の6つの基本も、単純明快である。なんだか、ビジネスに成功して金持ちになれるような気がしてきた。